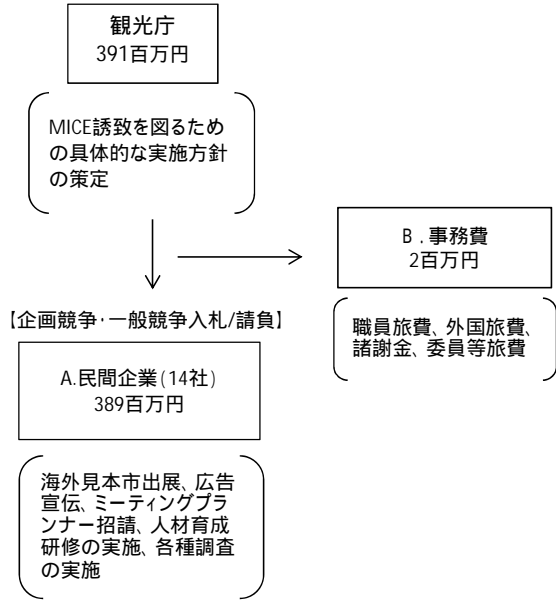


平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	MICEの開催・誘致の推進		担当部局	観光庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	H20～		担当課室	参事官		参事官 高見 牧人		
会計区分	一般会計		施策名	21 観光立国を推進する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	観光立国推進基本法第17条		関係する計画、通知等	観光立国推進基本計画 新成長戦略(基本方針)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	アジア各国等においては、国際会議をはじめ、MICE(会議、インセンティブ、国際会議、イベント、見本市・展示会等)産業を主要産業と位置づけ、MICEの開催・誘致の推進に積極的に取り組んでおり、わが国においてもインバウンドの拡大、経済効果、我が国のプレゼンスの向上、国際交流を通じた我が国のソフトパワーの強化、地域の国際化・活性化といった様々な意義を有することからMICEの開催・誘致を積極的に推進する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	MICEの誘致にあたっては、海外見本市への出展・セミナーの開催等のプロモーション事業を実施するとともにMICE専門誌への広告掲載事業を実施。誘致・開催に関する支援としては、誘致支援、テクニカルビジット等の観光交流事業開催に対する支援やキーパーソン招請を実施。また、受入環境整備のためMICE誘致戦略・施設のあり方調査やMICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデルを作成するとともに人材育成研修を実施。							
実施方法	直接実施	業務委託等	補助	貸付	その他			
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	371	363	449	-	5088の内数	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	371	363	449	-	5088の内数	
	執行額	285	279	391				
	執行率(%)	76.8	76.9	87.2				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	主要な国際会議の開催件数 (国際会議件数: UIA(Union of International Associations:国際団体連合)の定義によるもの)		成果実績	件	241	246	未発表	252
			達成度	%	96%	98%	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
)海外見本市への出展件数		活動実績)件)11件)9件)15件	
)海外見本市での商談件数		(当初見込み))件)859件)850件)2,570件	()
単位当たりコスト	1.1(百万円/件)		算出根拠	279百万円(21年度執行額)÷246件(国際会議開催件数) 22年度の国際会議件数が未発表のため、21年度で計算。				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	計	-	-					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況		広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	国・地方の役割分担の再整理をするとともに、国が実施すべき事業についても、事業の費用対効果を測定し、効率性の高い事業に重点化を図る必要がある。
		国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
		不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途		支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
		単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績		他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	誘致・開催支援事業については、支援対象の審査から受託者の決定に至るまで時間を要し、使い勝手が悪いことから十分に活用されていない側面があり、運用を見直す必要がある。
		適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	事業の費用対効果を測定し、効率性の高い事業に重点化を図る必要がある。
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	海外MICE関係者へのアンケート調査を実施し、市場のニーズの把握を行うとともに、費用対効果の観点から事業の重点化を図る。		
	<p>【前回の指摘を踏まえた執行上の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象市場の重点化の指摘に関しては、欧米を中心に見本市出展や広告掲載事業の更なる重点化を図った。 ・契約・予算執行の適正化の指摘については、契約情報について事前公示を含めた周知期間を十分におくとともに説明会の実施等により、応募企業数の増加を図るための改善を行った。 		
予算監視・効率化チームの所見			
抜本的改善		<p>事業仕分けの結果を踏まえて、誘致活動について効率的・効果的な事業執行を行うべく、事業効果の検証を十分にを行い、事業の重点化を図り、また誘致だけでなく外国人参加者を増やす取り組みも行うべき。</p> <p>また、予算執行効率化の観点から調達手法の改善(競争入札の導入、一社応札の抑制の取組等)を図るべき。</p>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>事業効果の測定手法(KPI)を構築・導入。</p> <p>海外プロモーション事業については、市場の重点化を図る。誘致支援事業については、規模要件等を導入し、効果の高い案件に絞り込む。また、外国人参加者増加支援策を導入。</p>			
補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【事業仕分け第3弾】</p> <p>事業番号・事業名 事業番号B-2 国際観光関係事業 (2) 国際会議の開催・誘致の推進</p> <p>WGの評価結果 来年度の予算計上は見送り</p> <p>とりまとめコメント</p> <p>12名の評価者の方の内訳は、廃止が3名、予算計上見送りが2名、予算縮減が6名。この6名の内訳は半額が1名、1/3縮減が3名、1割縮減が2名。予算要求どおりが1名であった。評価者からは、事業効果に疑問がある、費用対効果が合わないのではないか、抜本的に手法を見直すべきという意見等が寄せられている。本WGとしては予算計上見送りを結論とする。</p>			



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する)(単
位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
請負費	海外見本市出展事業	77			
請負費	海外プロモーション事業	73			
計		150	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	海外見本市出展事業等への出張等	2			
計		2	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人国際観光振興機構	MICEの誘致拡大に向けた海外MICE見本市出展事業等	150	随意契約 (企画競争)	-
2	(株)ADKインターナショナル	MICEの誘致拡大に向けたMICE専門誌等への広告掲載事業等	72	随意契約 (企画競争)	-
3	(株)野村総合研究所	MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル作成事業	59	随意契約 (企画競争)	-
4	日本コンベンションサービス(株)	MICE人材育成研修事業等	35	随意契約 (企画競争)	-
5	(株)三菱総合研究所	国立京都国際会館の拡充方針に係る基本調査及びPFI導入可能性調査	20	随意契約 (企画競争)	-
6	(株)日本旅行	インセンティブ旅行キーパーソン招請事業等	20	随意契約 (企画競争)	-
7	(株)電通	MICEの誘致・開催拡大に向けた誘致支援事業	15	随意契約 (企画競争)	-
8	(株)JTB首都圏	ミーティングプランナー招請事業	10	随意契約 (企画競争)	-
9	東日観光(株)	MICEの誘致・開催拡大に向けた開催支援事業等	2	随意契約 (企画競争)	
10	松本徽章工業(株)	「MICE」ロゴバッチの作製	2	4	82.8